

病院主導精神科アウトリーチの取り組みと実践

○富樫 剛清¹⁾、富永 佳代²⁾、成宮 純平¹⁾

1) 医療法人社団積信会長谷川病院、2) おうち訪問看護ステーション西新井

2016年国が提起し理念・取り組みとして『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』が各自治体で行われるようになった。これに伴い、精神科アウトリーチも長期入院患者を地域に退院させることや、重度精神障がい者の地域定着・未治療者への支援などで大きな役割を担い全国で活動が広まってきている。しかし、精神科アウトリーチは訪問支援だけでなく地域と共同し、多職種支援、他機関との連携が重要であり、安定した医療を提供するためのシステム作り、継続させていく土台や現場の支援者の確保など様々な問題を解決していく必要がある。それらの課題を病院主導の精神科アウトリーチとして、病院レベルでの実践を通して解決していく取り組みや症例を紹介し参加者と共有したい。本ワークショップでは、病院主導の精神科アウトリーチを実践している長谷川病院の取り組みを話したのち、大内病院での精神科アウトリーチの立ち上げを経験され現在は訪問看護ステーションにて病院と共同しながら在宅医療を行っている富永氏より取り組みを話す。後半では長谷川病院が行っている精神科アウトリーチの実践事例を成宮氏より発表する。これらの発表をもとに、最後は病院と地域の連携、支援の在り方や精神科アウトリーチについて参加者と意見交換したいと考えている。事例発表にあたり対象者に目的・方法を説明し同意を得た。個人情報保護のため、氏名は匿名化し地域が特定されないよう配慮した。本ワークショップ内容において関連し、発表者らに開示すべきCOI関係にある企業などはない。